強制同時給排レンジフード

取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されている物は、それに基づき電気工事をおこなってください。

安全上のご注意

● 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。

● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の２つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警 告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注 意：人が傷害を負う可能性および物的損害*の発生が想定される内容。

* 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警 告

分解・修理・改造禁止
● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

取付注意
● 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

取付注意
● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

アースを取り付ける
● アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

取付注意
● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意
● 本体と排気ダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

埋込禁止
● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意
● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります

使用禁止
● 交流 100 V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります

給気注意
● 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

⚠ 注 意

手袋をする
● 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付注意
● ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

取付注意
● レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

使用禁止
● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります

接触禁止
● 運転中はファンの中に指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

取付禁止
● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

取り付け上のお願い

● **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
- **大工工事【設置のための下地工事等】**
- **配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】**
- **管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】**

流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

● ダクトの不燃処理について
- ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
- 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。

● 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
また調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。

● 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m^3/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。

● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

● 本体やダクトなどが他の電気製品と接触しないように取り付けてください。

● 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。

80cm以上

● レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。
湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。

50cm 以上

● 電源は専用のコンセントおよびブレーカーを設けてください。
火災・故障の原因になります。

● 電源コード等の各種コード類は、吊るなどして、レンジフード本体や排気ダクト等に接触しないようにしてください。

● 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。

● 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので、断熱材を巻くなどの対応をしてください。

● 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、建物の気密性によって給気が必要となる場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

取り付け前の調査と準備

⚠ 警 告

分解・修理・改造禁止
● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

取付注意
● 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

取付注意
● 本体と排気ダクトは、可燃物との間を10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

埋込禁止
● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意
● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります

⚠ 注 意

手袋をする
● 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付禁止
● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

取付注意
● レンジフードの取り付けは、十分強度のある取付面または補強桟等に確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
壁材が薄く弱いと振動音が発生することがあります

お願い
レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取付用ねじは45mmの長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

本製品の質量	約 40.0kg

■ 板張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）
- ● 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- ● 板厚が 20mm 以上の場合は補強板は不要です。

■ コンクリート、タイル壁の場合
- ● あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

■ 土壁の場合
- ● 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでおいてください。

2 吊りボルトの設置
２本の吊りボルトを下図および製品寸法図を参照して天井部梁に取り付けます。
※ 吊りボルトは M10（市販品）を使用してください。
※ 吊りボルトは耐荷重 200kg ／本となるように取り付けてください。

※ 本図は右側排気仕様を示しております。左側排気仕様については製品寸法図を参照してください。

3 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。
※ 火災予防のため、製品の下端から調理機器の真上まで 80cm 以上必要です。

5 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

お願い
必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤作動することがあります。

付属品

座付ねじ（φ 5.1 × 45）3 本
本体の取り付けに使います。

段付ねじ（M4 × 12）4 本
給・排気口と L 形ダクトとの接続に使います。

吊り金具　2 個
本体の取り付けに使います。

天吊り金具　2 個
本体の取り付けに使います。

取付ねじ（M4 × 6）12 本
給気幕板の取り付けに使います。

ソフトテープ　2 本
給・排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使います。

排気口（電動シャッター）　1 個
L 形ダクトに取り付け、排気ダクトとの接続に使います。

給気口（電動シャッター）　1 個
本体に取り付け、給気ダクトとの接続に使います。

L 形ダクト　1 個
排気口と組み合わせて使います。

給気幕板（前ふた）　1 個
本体に取り付けます。

各部のなまえ

吊り金具
本体
天吊り金具
電源プラグ
連動線
フード
吊り金具
スイッチ
オイルパック
ランプカバー
ファン
整流板

製品寸法図

取り付けかた

1．本体の準備

■ ご注意
本製品は右側排気仕様と左側排気仕様の 2 種類があります。取り付けの前に確認してください。
本説明書は右側排気仕様の図で説明しています。左側排気仕様の場合は給・排気口の位置が逆になりますが、取付方法は同じです。

⚠ 注 意

手袋をする
● 製品取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

1 付属品を準備します。
梱包箱から吊り金具、天吊り金具、給・排気口、L 形ダクト、ねじ等の付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い
保護用のクッション材と固定テープは取付作業が完了するまでキズ、破損防止のためはずさないでください。

2 吊り金具・天吊り金具を取り付けます。（図 1 − 1）
本体の天板に 2 本ずつあらかじめ取り付けられているねじを使用し、付属品の吊り金具および天吊り金具各 2 個を天板へ取り付けます。

図 1 − 1

3 事前に取り付けた吊りボルトにフランジ付き六角ナットを取り付けます。（図 1 − 2）
吊りボルトの下側のフランジ付き六角ナットの位置（天吊り金具取付位置）は製品寸法図を参考にあらかじめセットしておくと後作業が容易になります。
※ 吊りボルトとフランジ付き六角ナットは取付作業者側で手配願います。

図 1 − 2

2．給気・排気ダクトの準備

⚠ 警 告

取付注意
● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意
● 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

⚠ 注 意

取付禁止
● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

使用禁止
● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
浴室用換気扇をお使いください
感電および故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼します。
また、コンセントの位置を確認します。

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトをレンジフードの上部に突き出すようにセットして周囲を仕上げます。
（コンクリート、タイル、土壁の場合）（図 2 − 1）

図 2 − 1

3．給気・排気用部品の取り付けと接続

「1. 本体の準備」の項で取り出した給・排気口および L 形ダクトを用意してください。
給気口は本体上面に、排気口は本体側面に取り付けます。

お願い
手動でシャッターを閉開すると故障の原因になりますのでおやめください。

1 ソフトテープを貼り付けます。（図 3 − 1）
給・排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。

図 3 − 1
ソフトテープ

2 本体の給気側に給気口を取り付けます。（図 3 − 2）
給気口取付部についている段付ねじ 2 本をはずした後、給気口を差込部に差し込み、はずした段付ねじ 2 本で固定します。
※ 取付方向は右図を参照してください。
※ 付属の給・排気口にはそれぞれ用途が表示してあります。取り付けを間違えないようご注意ください。

図 3 − 2

3 排気口を L 形ダクトに取り付け、本体の排気側に取り付けます。
1）付属品の段付ねじ（M4 × 12）4 本で排気口を L 形ダクトに右図のように取り付けます。（図 3 − 3）
※ 右側排気・左側排気とも同一です。

お願い
排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。
誤った取り付けの場合、排気不良や異常音の原因になります。

図 3 − 3
段付ねじ（M4×12）
排気口
コネクター(2P)

2）L 形ダクト取付部についている段付ねじ 2 本をはずした後、L 形ダクトを差込部に差し込み、はずした段付ねじ 2 本で固定します。

図 3 − 4

4 給・排気口へ連動線を接続します。（図 3 − 5）
1）給気口のコネクター接続部（3P コネクター）にレンジフード本体の連動線（3P コネクター）を接続します。
2）排気口のコネクター接続部（2P コネクター）にレンジフード本体の連動線（2P コネクター）を接続します。

図 3 − 5

お願い
● コネクターの接続は確実におこなってください。
接続が不十分な場合、正しく給気・排気ができなくなり、故障などの原因になります。
また、電源線、連動線は挟まないようご注意ください。
● コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合せて確実にロックしてください。
● 給・排気口の取付位置が間違っている場合、配線が届かないことがあります。
その場合は給・排気口を取り付け直してください。

取り付けかたは裏面に続きます。

取り付けかた（つづき）

4．本体の取り付け

⚠ 注 意

取付注意

● **本体の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**
落下によりけがをするおそれがあります

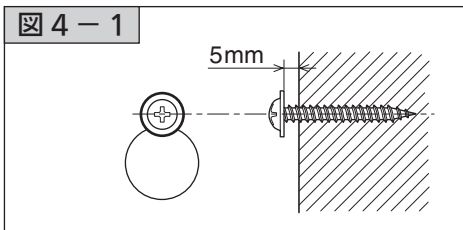
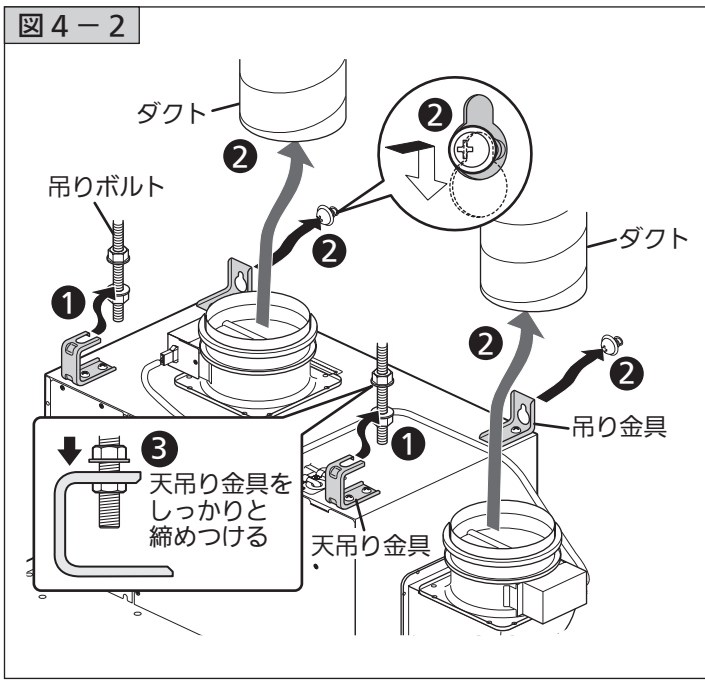
取付注意

● **部品の取り付けは確実におこなうこと**
落下によりけがをするおそれがあります

取付注意

● **作業は２人以上でおこなうこと**
本製品は約 40kg の重さがあります

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。
製品寸法図を参照し、だるま穴位置（左右各１ケ所）に座付ねじ（φ 5.1 × 45）を壁面との隙間５mmまで締め付けます。
（図４－１）

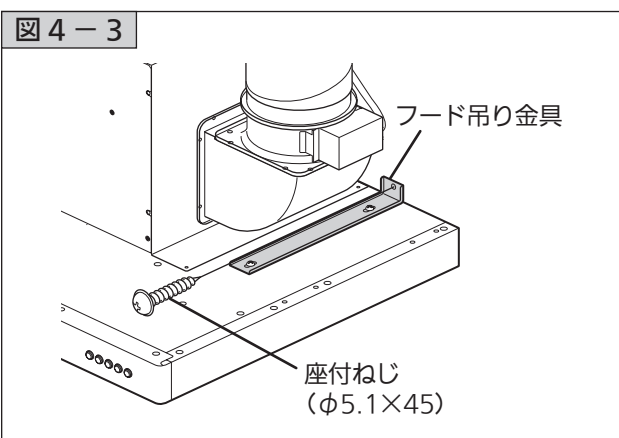
図４－１

2 吊りボルト先端を天吊り金具に通しながら（図４－２❶）座付ねじに吊り金具のだるま穴を引っ掛けた後、しっかり締め付けます。（図４－２❷）

お願い
ダクトに給・排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
（図４－２❷）

3 フランジ付き六角ナットで天吊り金具をしっかりと締め付けて固定します。
（図４－２❸）

図４－２

お願い
本体の水平度を確認しながら固定してください。

4 フード吊り金具を付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）で壁面に固定します。（図４－３）

図４－３

5．ダクトの接続

1 ダクト接続部に風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。
（図５－１）

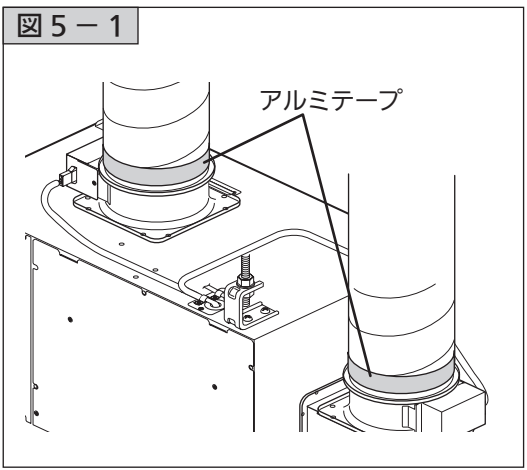
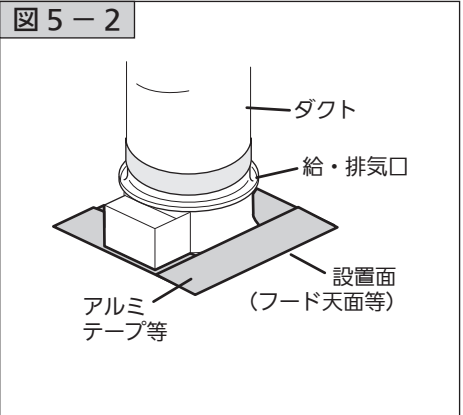
図５－１

■ 給・排気口設置面の漏風確認のお願い
給・排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの給・排気口を接続しようとすると、給・排気口と給・排気口の設置面（フード天面等）が変形し、排気漏れが発生してしまう場合があります。排気漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。漏風する場合は、給・排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。
（図５－２）

図５－２

6．電気配線

⚠ 警 告

分解・修理・改造禁止

● **修理技術者以外は、絶対に分解したり修理・改造しないこと**
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります

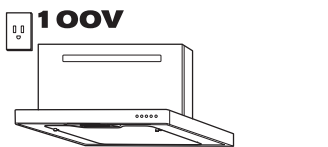
使用禁止

● **交流 100V 以外では使用しないこと**
火災・感電の原因になります

取付注意

● **電気配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**
誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります

アースを取り付ける

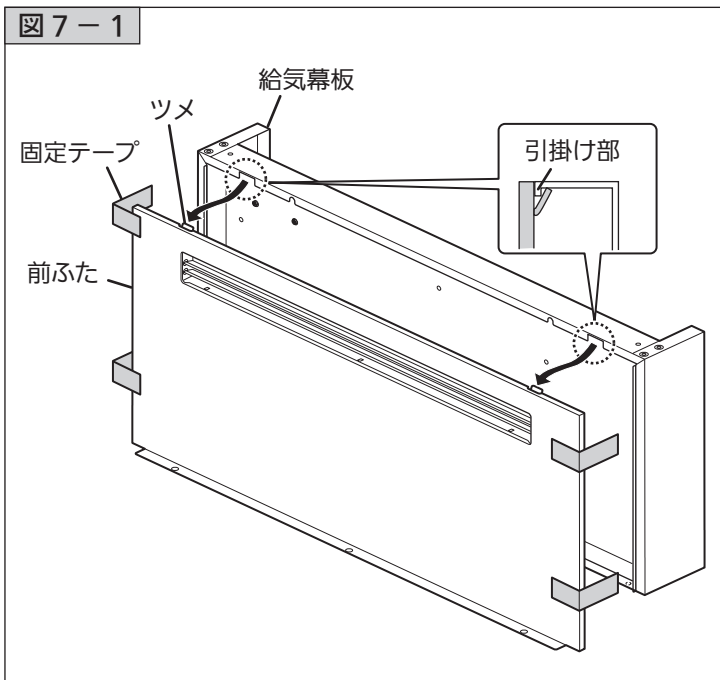
● **アースを確実に取り付けること**
故障や漏電のときに感電することがあります。
アースの取り付けは販売店にご相談ください

■ コンセントは、JIS C 8303 2極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。
■ コンセントは電源コードの長さ（機外長約 1m）を考慮し、設置してください。
■ 必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
■ 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い
電源は専用のコンセントおよびブレーカーを設けてください。

7．給気幕板の取り付け

1 前ふたをはずします。（図７－１）
給気幕板と前ふたを梱包箱から取り出し、固定テープを剥がして前ふたをはずします。

お願い
給気幕板・前ふたは変形させないよう、十分に注意してください。

図７－１

2 給気幕板を取り付けます。（図７－２）
給気幕板の開口部が本体の給気側になるようにセットし、付属の取付ねじ（M4 × 6）９本で取り付けます。

お願い
電源コードをはさまないよう、十分に注意してください。

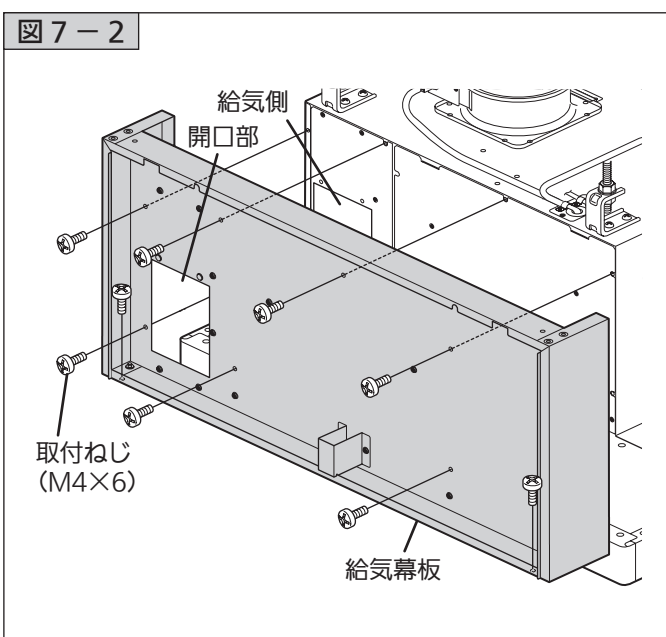
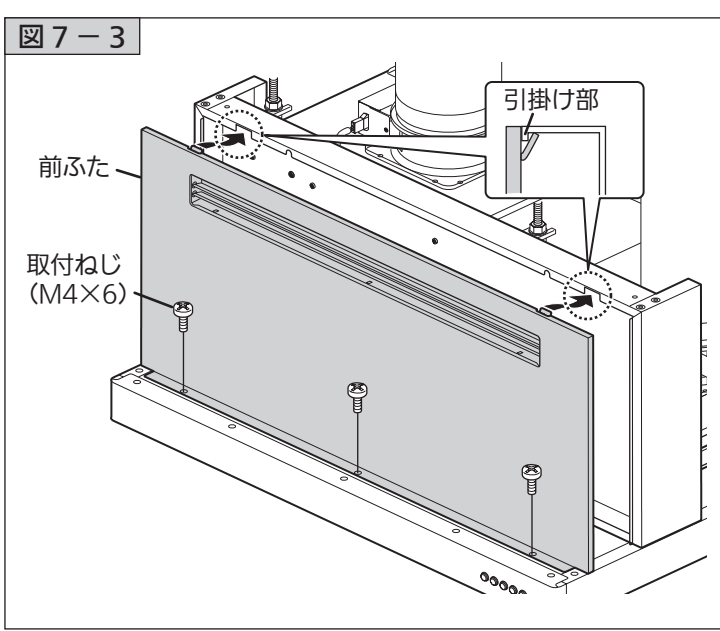
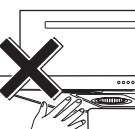
図７－２

3 前ふたを取り付けます。（図７－３）
前ふた上部のツメを給気幕板に引っ掛け、付属の取付ねじ（M4 × 6）３本で本体に固定します。

図７－３

8．取扱説明書およびオイルパック固定テープの取りはずし

■ 保護用クッション材をいったん取りはずし、整流板に貼り付けてある取扱説明書をはずします。
■ 付属の取扱説明書を参照して整流板を取りはずし、オイルパックを固定しているテープをはがします。固定テープをはがした後は整流板をもとどおりに取り付けてください。

9．試運転

⚠ 注 意

接触注意

● **運転中はファンの中に指や物を絶対に入れないこと**
けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、各操作スイッチを操作して、運転状態を確認してください。
スイッチの操作、運転状態等については取扱説明書をご覧ください。
■ 運転時、各速調の給気・排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
■ 取り付けまたは施工上に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

10．お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

［製造元］ 富士工業株式会社

本社・営業部 〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺２丁目１－９
TEL 042(768)3754（営業部）